

体を構成する分枝の間でも、デプシドンを含む分枝と含まない分枝が見られる。さらに、普通種であるサラチン酸の方を含むものについて着目すると、サラチン酸の平均含量の高い生育地（暖かい所）では、デプシドンを含まない分枝は見られないのに対して、サラチン酸の平均含量の低い生育地（寒い所）では、デプシドンを含まない分枝はしばしば見られる。また、より平均含量の低い生育地ほど高頻度でデプシドンを含まない分枝が見られる。ゆえに、ハマカラタチゴケにおいては、デプシドンを含まないものは、低温の影響によって生ずると考えられる。

○*Parmelia diffractaica* はブラジルにも産する（黒川 道） Syo KUROKAWA: *Parmelia diffractaica* (Parmeliaceae, Lichenes) new to Brazil

1971年にブラジルの Parana 州で採集したウメノキゴケ属の1標本は、量的にも充分とは云えず、また後述するように、従来知られている分布とあまりにもかけ離れているために、最終的な同定を保留してきた。最近この標本を精査する機会があり、標本はやや小さいが、その特徴を充分にそなえていることから、*Parmelia diffractaica* Essl. と同定したのでここに報告する。

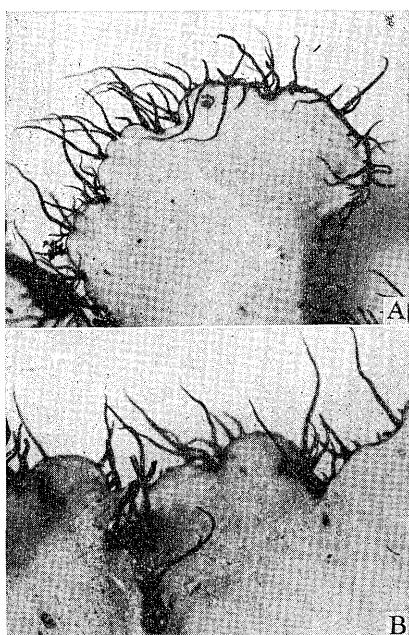


Fig. 1. Cilia of *Parmelia diffractaica* (A; S. Kurokawa 8384) and *P. spinibarbis* (B; S. Kurokawa 8353). ×9.

Parana 州の標本からはアトラノリンとジフラクタ酸が検出され、地衣体は粉芽をつけ、地衣体表面にかすかに網目状の白斑があり、裂片の縁に分枝したシリアルアをつける。このシリアルアは非常に特色があって、大部分はその根元のところで分枝し、分枝の1本は上方に、他の1-2(まれに3)本は下方に向っている (Fig. 1A)。これらの点は、北米東部に特産であるとして記載された *Parmelia diffractaica* と全く一致する。なお、ここに述べたようなシリアルアの分類学的な意義については今後さらに追及する必要があるが、著者がさきに記載した *P. spinibarbis* (Kurokawa, S. in Bull. Natn. Sci. Mus. Tokyo 17: 299. 1974) でも同様のシリアルアが見られる (Fig. 1B)。*P. spinibarbis* はブラジルから記載された種であるから、

現地では *P. diffractaica* と混同され易いと思われるが、*P. spinibarbis* はシフラクタ酸ではなく、サラチン酸を含むので、容易に区別される。

*Parmelia diffractaica* was described by Esslinger (The Bryologist 75: 80. 1972) as a new species occurring in Tennessee, North Carolina, and South Carolina in the United States. Although no other locality has been reported since then for the species, I recently found a specimen collected in Brazil to be identified with the present species.

As already pointed out by Esslinger (l.c.), *P. diffractaica* is characterized by having faintly reticulate-maculate upper surface, branched cilia, and soralia and by producing diffractaic acid in the medulla. Cilia of *P. diffractaica*, as also mentioned by Esslinger, are numerous and branched once or more at or near the base, usually with one branch directed upward and other(s) directed downward (Fig. 1A). Similar cilia are also found in *P. spinibarbis* Kurokawa (in Bull. Natn. Sci. Mus. Tokyo 17: 299. 1974) (Fig. 1B), which also has soralia and is distributed in Brazil. Thus, *P. diffractaica* may be confused with *P. spinibarbis* especially in Brazil. It is, however, clearly distinguished from the latter species by the negative color reaction with P in the medulla, where diffractaic acid rather than salacinic acid is produced.

Specimen examined. Brazil. Parana: Jardim Paraizo, 9 km west of Curitiba, elevation about 800 m, S. Kurokawa 8384 (TNS).

(国立科学博物館 筑波実験植物園)

□ 国立科学博物館附属自然教育園：動植物目録 118 pp. 1984. 同園発行. 非売品. 東京目黒にある同園の目録で、植物については1954年に発行されたリストに次ぐものである。1949年以降記録されたものはすべてのせてあり、今回確認されなかったものには印がつけてある。ミズニラ、ツルカノコソウ、レンリソウ、マツグミ、ヨグソミネバリ、コケリンドウなどがそれである。前回と今回の比較のために、本リストで新しく記録されたものにも印があるとよかったです。予算区分の関係で非売品なので一般には入手できないが、主要な機関には配布される。

(金井弘夫)